

現場支援地区の取り組み状況と今後の展開 <中山間地域研究センター支援スタッフ集約一覧表> 2 ◆ 検証地区

地区	美又 (浜田市)	窪田・須佐 (出雲市)	黒松 (江津市)	民谷 (雲南市)	塩田 (雲南市)	谷 (飯南市)	志々 (飯南町) ◆	別府 (美郷)	畑迫 (津和野)
H25年度 成果	六次産業化に向けた環境整備。担い手人材(協力隊)の受け入れ。	地域内のコミュニティビジネスの事業プラン計画(10組)	水産物による特産品づくり、高齢者の見守りと自主防災活動「緊急連絡カード」を作成した	地域自主組織の設立。民谷分校を活用した交流センターの活用。	地区計画策定委員会の結成、地区の課題・将来について話し合う意識・体制ができてきた	農家レストラン、農産加工の試行、ヤマメ飼養管理の実施、自治会輸送のアンケート調査を実施した。	地域全体でのWSと集落に入ってのWSを通じて、「高齢になっても安心して暮らせる」「若い人が生計を立てられる地域を作る」の方向性を立てた	聞き取り調査等により、地域の課題等の抽出ができた。	(豪雨災害を受けて)特になし
H25年度 課題	六次産業化の拡充。美又温泉の活性化。組織間連携。交通弱者対策。メンバー外の地域住民に対する活動参画促進。	取り組み体制が整いし各各コミュニティビジネスプランの実行。	持続可能な水産加工等の経済活動の探求。具体的に定住に繋がる空き家対策の実現。	地域づくりに向けた話し合いの体制を整える。定住に向けた取り組み内容の話し合い。	具体的な取り組み内容はまだ模索中。地域自主組織全体の意思決定が不透明	加工ビジネス等を行うためのスキルの取得。活動団体間の連携と情報共有の構築。廃校校舎の多面的利用。自治会輸送の有償化。	地域全体の巻き込み・取組みの具体化	六次産業化の仕組み作り。取り組み推進を支える体制づくり。NPOの経営安定化(特に輸送サービスの赤字をどう補填していくかが課題)	津和野町との連携不足。PT支援に関する共通認識不足。 地元(まちづくり委員会)とのコミュニケーション不足。
H25年度 定住への取組	協力隊向けの定住環境整備。		空き家バンク活用によって定住者1組30歳代子連れ夫婦の家族が出現した。				—	共育ツーリズム推進のための先進地視察	
H26年度 到達目標 重要ポイント	雇用の創出も狙った地域丸ごと六次産業化の達成。住環境整備(今後の定住希望者に向けて)。住民の主体性向上。	未来サポート佐田を中心とした横断的な地域団体・住民の連携体制づくりによる産業興し	防災を中心とした安心づくり	・地域の活動計画を作る。 ・旧民谷小学校を拠点とした自治・交流・定住の仕組み作り。	地区計画を作る	定住を支える産業興しの軸&拠点づくり	「高齢者が安心して暮らせる」と「若い人が生計を立てられる」の取組みの具体化。特に、二つの課題をつなぎ合わせる取組みの実現	定住の受け皿づくりを狙った別府安心ネットや農事法人の事業拡大。女性グループの育成。	(名賀地区)これからの地域づくりビジョンと体制の構築
H26年度 定住実現 へのステップ	特産品生産の安定化と販路確保による経営の安定化。六次産業以外の分野(Uターン者を増やすための取り組み、交通弱者対策等)への着手。	地域協議会による空き家対策の取り組み	加工ビジネスと定住に繋がる空き家対策(調査)	・定住につながる計画の設計。 ・グリーンツーリズムなどの実働している交流事業を話し定住に結びつけていく。	故郷にしたいと思える地域づくりが始まる	具体的な定住受け入れの体制づくり(集落調査)、新たな観光形態持続的な交通システム	・公民館・診療所・支所・集会所機能の複合施設「さつき会館」を地域の暮らしの核となる施設へ発展 ・定住住宅整備と暮らしの条件整備を連動した定住呼びかけ	共育ツーリズム推進による別府のファン拡大。まずは交流人口増を目指し、定住人口増を狙っていく。	次世代へ地域をつなぐ意識醸成
望まれる 県全体での ○政策支援 ○人材育成 ○地区連携	特産品生産に対する専門的アドバイス。協力隊へのサポート(六次産業以外の活動に対しても力が発揮できるように)。	・コミュニティ組織の広域連携化 ・各活動へのアドバイス及び事例、制度の紹介	マネジメント人材の育成・配置、ビジネスプランの地区間連携	アドバイスの事例、制度の紹介。 ・交流事業(グリーンツーリズムの多面的展開など) ・定住対策 ・拠点活用(定住財団など)	計画に挙げた取組みへの具体的なアドバイス	地区間同士のビジネスプランの磨きあい		共育ツーリズムを推進していくためのサポート(女性の組織化、協力隊の活用、情報提供等)	豪雨災害のまとめ。復興支援チーム・プロジェクトの創出。 【県】西部農振C+西部県民C+中山間C 【津和野町】農林課+つわの暮らし推進課+災害対応関係課 営農組織+自治会等にヒアリングやワークショップを実施。
生活の場	住宅整備、移住受入	住環境整備	★ 空き家対策	★ 空き家調査			★ 定住住宅・空き家調査		
	子育て・教育								
	見守り、防災、福祉			見守り・自主防災			★ 見守り・生活支援		★ 豪雨災害復興
	生活交通、買い物	生活交通対策				自治会輸送の有償化	★ 生活交通対策	過疎地有償・福祉有償運送	
	通信								
地域 の つぎ あい	地域組織			★ 組織設立	★ 組織充実			★ NPO運営安定化	★ 復興支援体制
	人材	★ 地域おこし協力隊		★ マネジメント人材育成	主事・支援員配置	集落支援員配置		地域おこし協力隊	
	拠点、廃校活用				★ 廃校活用	廃校活用			
	文化、歴史、伝統							銀山街道・花街道作り	
	交流				★ 交流			★ 共育ツーリズム	
産業	特産品、産業(小さな経済)		★ コミュニティビジネス	★ 特産開発		★ 特産開発	★ コミュニティビジネス検討	★ 六次産業化	
	雇用の受け皿	★ 六次産業化	★ 広域サポート組織			★ 水力発電		集落営農・NPOでの雇用	

★…平成26年度の重点課題

地区	青原 (津和野)	真砂 (益田市)	北三瓶 (大田市) ◆	山佐 (安来市)	北 (川本町)	出羽 (邑南町)	知夫 (知夫村)	五箇 (知夫村)
H25年度 成果	まちづくり委員会への実態把握と定住への取組提案。	住民、公民館、学校、企業が一体となった食育と保育所への食材供給	自主防災組織「北三瓶自主防災会」の設立。北三瓶の将来図づくり(集落ビジョン実践塾への参加、素案完成)	再生会議内に3分科会を設置し具体的な取組みを展開(カレンダー、買い物イベント、名所巡り、情報発信等)	連合自治会を中心にGWを通じて、地域の課題と将来展望の案出し。			
H25年度 課題	津和野町との連携不足。PT支援に関する共通認識不足。	地域丸ごと組織「真砂人」の事務局機能を担う人材の確保	事務局体制の強化(人材確保)→支援員	買い物対策、子育て、空き家対策等含めたビジョン策定	GWによる各テーマグループによる将来案の計画策定及び実行			
H25年度 定住への取組	推進住宅と合わせての受入体制強化・情報発信	居住可能な空き家の不足。	地域情報発信	Iターン夫妻の地域ぐるみでの受け入れ。				
H26年度 到達目標 重要ポイント	青原の定住推進プロセスを経ての住宅受入。 津和野スタイルの定住受入プロセスの実践。	地域丸ごと組織「真砂人」の自治組織化	集落ビジョンの3つの柱(農林業、生活福祉、交流・定住)の具体化(詳細な計画づくりと実践)	田舎暮らしを実現できるビジョンづくり	地域づくり計画策定・実行組織の確立	Iターン者を中心とした定住プロセスづくり	複合的就業モデル構築	
H26年度 定住実現 へのステップ	青原版「移住の手引き」と具体的な交流事業	真砂版「移住の手引き」と定住用土地確保。子育て移住などをターゲットにし、具体的な地区紹介に関する情報発信が必要。	安心・安全な暮らしづくりから、山村留学、農林業、空き家調査などを連動した北三瓶らしい「定住」のあり方を明確化	Iターンの地域ぐるみ定住プロセス、暮らし方を紹介する「山佐の暮らし方」集約	集落ビジョン・営農体制との連携と女性、若者の参画	地域での住宅借り上げによる。お試し住宅の整備や活用手法の確立	「島の暮らし」の現状把握。Iターン者が島から離れてしまった要因の分析。	
望まれる 県全体での ○政策支援 ○人材育成 ○地区連携	地区担当職員や定住推進員の育成と、津和野町における分野横断の合わせ技施策の実現	地域自治組織設立・運営に関わる人材育成と地区連携型研修会。 地域づくり活動は非常に活発にされているため、具体的な定住実績に結びつくような支援(住宅問題等)への支援が必要。	地域づくり情報の共有化	各種団体への活動支援、助言、事例、制度の紹介等	各活動へのアドバイス及び事例、制度の紹介	各活動へのアドバイス及び事例、制度の紹介	調査協力、各活動へのアドバイスや情報提供	
生活の場	住宅整備、移住受入	★ 定住住宅建設	空き家・土地確保	★ 空き家調査	空き家対策			
	子育て・教育		★ 食育・学校給食					
	見守り、防災、福祉			自主防災・除雪	★ 買い物対策			
	生活交通、買い物			買い物支援	〃			
	通信							
地域の つきあい	地域組織		★ 地域自治組織化	★ 地域組織の充実	組織充実	★ 連合自治会による活動充実		
	人材	地区担当・定住推進員育成	★ 事務局人材確保	集落支援員配置		女性・若者参画		
	拠点、廃校活用					廃校活用		
	文化、歴史、伝統			知恵・伝統の継承	名所めぐり・カレンダー	城跡・田植囃		
	交流			みちくさ日和		地域内外交流		
産業	特産品、産業(小さな経済)			特徴ある農業・山林資源活用				
	雇用の受け皿			集落営農間連携		★ 営農法人間連携		

★…平成26年度の重点計